

Title	岡晴夫教授 略年譜・著作目録
Sub Title	Bibliographical resume list of publications of Professor Haruo Oka
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2004
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.87, (2004. 12) ,p.I- IX
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	岡晴夫教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00870001--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

岡晴夫教授

略年譜・著作目録

略年譜

- 昭和一四年（一九三九） 四月二日 中国山東省済南市に生まれる。
- 昭和二一年（一九四六） 三月 山梨県塩山市愛育園幼稚園卒園
- 昭和二七年（一九五二） 三月 東京都港区立白金小学校卒業。
- 昭和三十年（一九五五） 三月 東京都渋谷区立代々木中学校卒業。
- 昭和三三年（一九五八） 三月 東京都立戸山高高等学校卒業。
- 同年 四月 慶應義塾大学文学部入学。
- 昭和三七年（一九六二） 三月 同大学文学部中国文学専攻卒業。
- 同年 四月 同大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻入学。
- 昭和三九年（一九六四） 三月 同大学院修士課程修了。
- 同年 四月 同大学文学部助手。
- 昭和四四年（一九六九） 二月より二年間 香港中文大学客員講師。
- 同年 四月 慶應義塾大学文学部専任講師。
- 昭和四八年（一九七三） 四月 同助教授。
- 昭和五八年（一九八三） 四月 同教授。
- 平成一七年（二〇〇五） 三月 定年退職。

この間、慶應義塾外国語学校・慶應義塾女子高等学校・鶴見大学文学部・東京大学教養学部・大正大学大学院・早稲田大学大学院において非常勤講師を勤める。また、学生部副部长・通信教育部副部长・言語文化研究所副所長・慶應義塾大学藝文学会委員長・全国漢文教育学会評議員・日本学術振興会委員・三田文学会常任理事・NHKインターナショナル理事（非常勤）・慶應塾生新聞会会長等を歴任。

著作目録

論文

- 「元雜劇做工考」〔『藝文研究』第一七号、一九六四年二月〕
- 「関漢卿の戯曲——その作劇法について——」〔『藝能』第六卷八号～一二号・第七卷一号～三号、一九六四年八月～
六五年三月〕
- 「元曲構成に関する一考察——劇中の告知者について——」〔『藝能』第七卷四号～九号、一九六五年四月～九月〕
- 「元曲におけるヘコミック・リリーフについて」〔『藝文研究』第二七号、一九六九年二月〕
- 「元曲・明曲におけるヘ夢」〔『藝文研究』第三二号、一九七三年二月〕
- 「元雜劇における空間形成」〔『藝文研究』第三六号、一九七七年二月〕
- 「劇作家としての李笠翁」〔『藝文研究』第四二号、一九八一年二月〕
- 「李漁の戯曲とその評価」〔『藝文研究』第四三号、一九八二年一二月〕
- 「論日中兩國傳統戯劇的異同」〔『中華戯曲』第一輯、一九八六年二月〕
- 「遊びの文藝——その理解のむずかしさ——」〔『中国—社会と文化』第二号、一九八七年六月〕
- 「李漁評価に関する考察」〔『藝文研究』第五四号、一九八九年二月〕
- 「李笠翁の戯曲と歌舞伎」〔『演劇学』第三一号、一九九〇年一月〕

- 〔「閒情偶寄」考（一）〕〔「藝文研究」第五九号、一九九一年三月〕
- 〔「閒情偶寄」考（二）〕〔「藝文研究」第六〇号、一九九二年三月〕
- 〔「閒情偶寄」考（三）〕〔「藝文研究」第六五号、一九九四年三月〕
- 〔李笠翁と日本の戯作者〕〔「藝文研究」第七三号、一九九七年一二月〕
- 〔明清戯曲界中的李漁之特異性〕〔「明清戯曲國際研討會論文集」下卷、一九九八年八月〕
- 〔李漁与平賀源内——日中「戯作」之比較——〕〔「北京論壇・中国文学分会論文或提要集」二〇〇四年八月〕

主たる研究発表・講演

- 〔元雜劇の演技について——西廂記を中心に——〕〔「藝文学会」一九六二年六月〕
- 〔元雜劇做工考〕〔「日本中国学会」一九六二年一〇月〕
- 〔閩漢卿の戯曲——その作劇法について——〕〔「藝文学会」一九六三年六月〕
- 〔元曲構成に關する一考察——劇中の告知者について——〕〔「日本中国学会」一九六三年一〇月〕
- 〔元曲の劇的發展における低徊性について〕〔「日本中国学会」一九六四年一二月〕
- 〔唐代伝奇の元曲劇化について〕〔「早慶中国学会」一九六六年六月〕
- 〔香港より還りて〕〔「早慶中国学会」一九七一年六月〕
- 〔元曲・明曲における「夢」の様相〕〔「日本中国学会」一九七二年一〇月〕
- 〔劇作家としての李笠翁〕〔「日本中国学会」一九八一年一〇月〕
- 〔李漁の戯曲とその評価〕〔「日本中国学会」一九八二年一〇月〕

- 〔論日中兩國伝統戲劇的異同〕（復旦大学中文系・一九八四年二月）
- 〔李漁的戲劇觀和創作〕（復旦大学中文系・一九八五年一月）
- 〔李漁の評價をめぐって〕（早慶中国学会・一九八五年七月）
- 〔戯作者としての李漁——その人と作品——〕（日本中国学会・一九八六年一月）
- 〔李漁的戯曲与へ歌舞伎〕（中国戯曲藝術国際學術研討会・一九八七年四月）
- 〔私の李漁観——彼の作品をどう読むか——〕（東大中国学会月例会・一九八九年九月）
- 〔『李笠翁十種曲』与日本の歌舞伎〕（中国戯曲学院・一九九〇年二月）
- 〔『李笠翁戯曲話』攷〕（中国戯曲学院・一九九〇年二月）
- 〔李笠翁与日本の歌舞伎及戯作文藝〕（北京大学中文系・一九九〇年二月）
- 〔中国の演劇世界〕（文祥堂フォーラム・一九九一年二月）
- 〔中国文学の特色〕（港区区民大学講座・一九九三年一月）
- 〔『聊齋志異』と『紅樓夢』〕（港区区民大学講座・一九九三年二月）
- 〔李笠翁与日本的戯作者〕（北京大学古文獻研究所及び中文系・一九九五年三月）
- 〔明清戯曲界中的李漁之特異性〕（明清戯曲國際研討會・一九九七年六月）
- 〔李漁作品の通俗性に関する考察〕（韓国忠南大学校中文学科・一九九八年三月）
- 〔京劇における歌と舞い〕（立命館大学・二〇〇三年六月）
- 〔京劇——その歌唱と身体表現——〕（慶應大学アートセンター・二〇〇三年七月）
- 〔李笠翁と風来山人〕（早慶中国学会・二〇〇四年七月）

「李漁与平賀源内——日中「戲作」之比較——」（北京フォーラム・二〇〇四年八月）

主たる解説・評論・その他

- 「京劇と「文化大革命」」（『藝能』一九六六年一〇月）
「中国文学者としての奥野先生」（『藝能』一九六八年四月）
「香港の旧正月」（『三田評論』一九七〇年四月）
「小手取りの達人・奥野先生」（『奥野信太郎・回想集』文化綜合出版、一九七一年六月）
「役者は氣狂い 見物は阿呆」（『劇場』第一六号、一九七七年二月）
「最近みた中国の「旧劇」——京劇の訪日公演・その他——」（『藝能』一九七九年一二月）
「演劇世界における京劇」（『中国京劇団訪日公演』一九八二年九月）
「わが「百年目」の弁」（『慶應義塾大学報』一九八四年四月）
「中国の幽霊」（『三田評論』一九八四年八月）
「中国の「おもしろさ」」（『塾』一九八五年六月）
「大いなる混沌の世界——上海——」（『三色旗』一九八六年二月）
「中国戯曲文学史上における崑劇」（『中国崑劇初訪日公演』一九八六年五月）
「中国の伝統文化と歌舞音楽」（『世界民族音楽大系 解説書Ⅰ』平凡社、一九八八年六月）
「戯作者氣質——李笠翁とわが国と——」（『新日本古典文学大系』第八〇巻付録月報三三・岩波書店、一九九二年二月）
「解題」（奥野信太郎著『藝文おりおり草』平凡社、一九九二年五月）

「徽班」と京劇」（『中国安徽省徽劇団初訪日公演』一九九三年五月）

「奥野先生の随筆」（『奥野信太郎 中国随筆集』慶大出版、一九九八年三月）

「会わせてみたい人」（『三田文学』二〇〇〇年十一月）

辞典・事典項目執筆

「閩漢卿」他（『世界文学小辞典』新潮社、一九六八年一月）

「紅樓夢」「西遊記」「三国志演義」（『現代百科事典』ぎょうせい、一九八一年六月）

「京劇」「閩漢卿」（『中国思想辞典』研文社、一九八四年四月）

「中国演劇」「京劇」（『大百科事典』平凡社、一九八五年二月）

「閩漢卿」「李漁」他（『新潮世界文学辞典』一九九〇年四月）

「李漁」他（『集英社世界文学事典』二〇〇二年二月）

著書

『元曲』（盛光社、一九六七年三月）

『中国語基本文型——表現二〇〇——』（三省堂、一九七四年五月）

『中国文学概論』（共著、高文堂、一九八六年三月）

『バラエティー・チャイニーズ』（共編、同学社、一九八八年二月）

『宋・元』（学習研究社 一九九六年五月）